

シンポジウム

◆ 先端技術の進展と東工大の取り組み ◆

【講演者】

益一哉 氏

(東京工業大学 学長、工学博士
経済産業省 産業構造審議会 知的財産分科会 委員)



【略歴】

(学歴)

昭和 50 年 3 月 神戸市立工業高等専門学校 電気工学科 卒業
昭和 52 年 3 月 東京工業大学 工学部電子物理工学科 卒業
昭和 54 年 3 月 同 大学院理工学研究科 電子工学専攻 修士課程 修了
昭和 57 年 3 月 同 大学院理工学研究科 電子工学専攻 博士課程 修了

(職歴)

昭和 57 年 4 月 東北大学 助手 電気通信研究所
平成 5 年 4 月 同 助教授 電気通信研究所
平成 12 年 6 月 東京工業大学 教授 精密工学研究所
平成 28 年 4 月 同 教授 科学技術創成研究院
平成 28 年 4 月 同 科学技術創成研究院長
平成 30 年 4 月 同 学長 (現職)

(専門分野)

電子デバイス, 集積回路工学, 異種機能集積回路技術, ワイヤレスセンサネットワーク

【講演要旨】

東京工業大学の前身となる東京職工学校が 1881 年に設立されて以来、本学は産業に貢献する研究成果の創出と実践的技術者の育成を担ってきました。フェライト、水晶振動子、面発光レーザ、IGZO など多くの技術を本学は産み出して来ました。Society5.0 と呼ばれる現在から未来への時代においても、本学と社会との『知と経済の好循環』を生み出すべく、大型の産学連携活動、新研究領域を開拓する攻めの基礎研究に取り組んでいます。また、社会との対話を通じ、未来社会をデザインする未来社会デザイン機構も立ち上げました。AI、IoT の進展により、マテリアルズ・インフォマティクスに基づいた新材料の探索、サイバー空間のセキュリティなど新しい研究手法や対象が広がる中で、本学が目指すべき役割を紹介します。